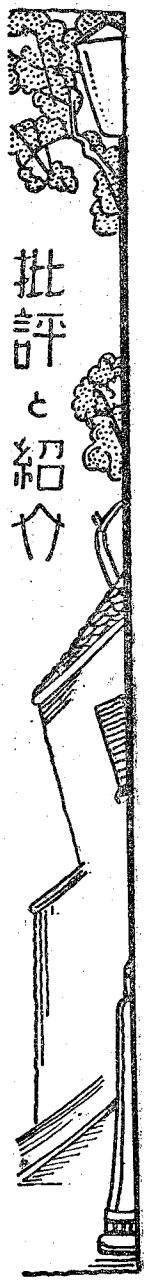

新刊紹介 批評と紹介

田中好

江守保平君著近世道路學

內務技師江守保平君が近世道路學を著はされた。此著は工學の外に道路運輸問題が附してある。此問題は筆者が常に研究せむとしてゐるものであつたので頗る興味と希望とを以て讀破した。嚢には同じ內務技師の牧野雅樂之丞君が例の高等土木工學全集の一部として道路工學を論述され、之も併せて道路經濟の一部を取扱はれた。聊ともすれば經濟問題を閑却し易い技術界に於て、技術家が經濟論を强調するやうに爲つたのは頗る喜ぶべき現象である。

近世道路學は十章に類別して論述され、第一章道路の沿革、第二章道路運輸、第三章道路行政組織、第四章道路網計畫、第五章道路の設計、第六章砂利道及碎石道、第七章瀝青材料論、第八章瀝青路面處理及瀝青マカダム道、第九章アスファルト道、第十章コンクリート道とに分れてゐる、第五章以下の事項は所謂技術に屬することで、門外漢たる筆者の彼是批評する限りではない、何れ夫等は他の人々が批評するであらうから夫れに讓るのであるが、第一章乃至第四章に就ては筆者等の無關心事では無い、で聊か卑見やら希望を述べて見やう。

第一章の道路の沿革では、道路築造技術に關する沿革を述べローマ時代から佛英米三國に於ける獨特の道路技術を紹介してゐる。之は餘り目新らしいものでは無いが、第二章の道路運輸に關しては著者が最も力を注がれた苦心の跡を窺ふことが出來る。先づ自動車の發達の趨勢を論じて、將來に於ける道路網の發達と國內自動車工業の進歩と相俟つて自動車運輸の發達を促がし、近き將來驚くべき發達を見るであらう、と結論されてゐることは筆者も亦全然同感であるが、唯だ此所論より思ひ附いたことは、ガソリンの產出乏しき我國に於てはいかに自動車工業が、發達しても米國に於ける自動車の發達程には達しないものと見るのが、至當では無からうか、從つてやゝともすれば我國道路の建設に就て米國の夫れを模倣せむとする風潮のあるのは排すべきであらう。夫れは筆者の餘談であるが、次に氏は一般交通機關と自動車との關係を、荷馬車と鐵道とに對象して論じ、自動車發達の爲に人力車や荷車が減少したるに反し、荷牛馬車が增加してゐる事實に就ては、單に荷牛馬車が小運送機關として相當使用されるからであると言つてゐるに過ぎないが、固より夫等のことも重大な原因の一つに違いない。併しながら荷牛馬車も自動車に對して特長があることやら、我國の捨つべからざる慣習があることや、支派線的道路が改良されて居ないこと、等々の事由があつて、如何に自動車が發達しても夫等車輛の減少を見ないのである。從つて道路運輸を論ずるに方つては、是等車輛の將來に想到し、荷牛馬車制度の改善を研究するのが、現時の道路運輸に於ける最重要事である。氏が之を餘り簡單に取扱つてゐるのは惜しい氣がする。慾を言へば第四節に於て取扱つてゐる自動車の構造の如きは自ら他に說明すべき學問があるのであるから之を省略し、筆者の希望する點を研究して呉れたら一層本書の權威を增したことであらう。

自動車對鐵道の關係に於ても、米國と我國との現狀を說明してゐるに過ぎないが、米大陸に於ける兩者の關係と我國に於ける關係とは著しく相違してゐて比較にならない、然るにも拘はらず世には兩者を同一視して對策を樹てむと

する傾向がある。殊に陸運行政を主管すると言はるゝ役所に於ても其の傾向に墮し、聊ともすれば當然自滅の運命にある鐵道を尙保護せむとしてゐるが如きは大きな間違と言はねばならぬ。夫れ故に氏がモー尠し此問題を徹底的に論じて呉れてゐるだらうと思つたのに、唯だ兩國の現狀說明に終つたのは物足らない感がする。殊に一昨年鐵道省で決定された、自動車交通網の制定を以て交通政策の統一を期するものであると言つてゐるが如きは大なる間違と言はざるを得ない、併し第三節が取扱つた自動車運輸の各國に於ける實際は諸方面の資料を蒐集してゐるので參考となるもので氏の努力に感謝する。

第三章の道路行政組織は、甚だ失禮な言ひ分ではあるが、內容は行政組織の問題ではなく、道路の種類と其の現狀と一部費用負擔の問題とを取扱つたに過ぎない、行政組織に言及するならば、官制の法律論的叙述と社會組織を對象としての行政組織の研究であらねばならぬ。併しながら英米獨の各國に於ける以上の事項の現狀を說明してゐるから、夫等を知らむとする人の爲には多大の參考と爲るであらう。

第四章に於ては道路網計畫の下に道路運輸調査の必要な所以を述べ、其の調査の方針を示し實例を紹介してゐる、卽ち氏は運輸調査は、現在道路の交通調査、該地方人口の分布調査及該地方產業狀態調査の三事項に及ぶべきものであることを述べ、ブランチヤード教授の提唱した定義、卽ち道路運輸調査とは或る道路に於て將來之を利用すべき交通の量及質を豫想するに必要なるあらゆる資料を集めて行ふ研究であることを紹介した。固より道路網を計畫するに方つて夫等の事項を調査研究すべき必要あることは筆者も亦同感である、併しながら道路網を設定するには必ずしも現在存在する道路に依るべきではなく、所謂交通指導の方針に依つて新線を選擇するの必要ある場合が尠くない。是等の場合に於ては假令ブ教授の調査に關する定義が正當であるにしても、現在道路の交通調査の如きは問題ではないやうである。從つて氏が提唱する道路網計畫とは現在道路

の改良計畫のことのやうにも解し得らるゝ、若し氏が新道路網設定の方針を論議するのであるならば尙調査の重要事項として擧ぐべき他に多くのものがある筈である。從つて筆者は氏の擧げた三事項に限定することには贊成出來ない、現在都市計畫として決定さるゝ道路網に關しても筆者は其の方針が奈邊にあるのかを疑ひ、交通調査の不十分と將來に於ける交通狀勢の推定が往々にして認識不足にあらざるかを痛感しつゝある。成る程道路其のものの計畫は氏が說明された萬國道路會議に於けるルイス氏の意見が正當であるにしても、夫れを實行するに關し問題と爲るべき經濟問題の調査研究を忘つてはならぬのである。道路運輸問題等に關し經濟調査に言及せる氏が、此點に關する意見を詳述され無かつたことは筆者の頗る落膽する所である。更に一段の研究を加へられて筆者等の蒙を啓發されたいことを切望する。

第五章以下の問題は所謂道路工學の範圍に屬するものであるが、氏は之を素人に判り易く說明され、門外漢たる筆者に於てさえ、其の大綱を諒知することが出來る、從つて本書は近世に於ける道路に就て社會一般の智識を取得するに最も利便必要な著述たるを失はない、世の科學は分化して各自の專門に努むれば可いのではあるが、道路行政の任に當る者は道路工學の概要を了知し、道路技術を管掌する者も亦道路行政乃至經濟を了得するの必要がある。江守君の此著は克く兩者の要求を滿足せしめたものと言つて過言ではない、之を特に道路關係者の必讀すべき良著として推賞すると同時に筆者の妄評を許されたい。(東京工人社發行定價三圓)

地方災害土木關係事務提要

內務省地方局の谷口壽太郎君と、土木局の岡本二雄君との手に依つた地方災害土木關係事務提要が出版された。本書は地方災害土木に關する事件の取扱に關し、實務家の立場から關係法令及例規を解說して關係者の執務資料とする目的で刊行されたものであつて、災害復舊方針の樹立、災害土木費

の國庫補助及災害土木工事の執行等所謂土木行政に關する事項を收むるの外、災害復舊土木費の財源たる制限外課稅及起債等に關し其の理論の概要と事務取扱の手續に付所見を述べ災害統計を附してゐる。

災害に依つて毎年公共土木施設が蒙る損害は一箇年平均約三千萬圓と言はれ、我國の財政上看過することの出來ない大負擔の一つである。從つて何とかして是等の損害を未前に防止し、國民を其の災禍より免れしむる事が必要であるが、あらゆる災禍を防止することは不可能であるばかりでなく、假令夫れが出來るにしても財政上到底容れ難いことである。そこで本書は災害を受けた公共土木施設に對しては如何に措置すべきか、又現行制度は之に對して如何なる對策を採りつゝあるかを說明し、更に進んで其の事務取扱の手續に亘つて說述してゐるから、公共土木施設の管理者は勿論其の機關と爲つて事務を執行する者乃至は土木費を議決する議員等の必讀すべき著述である。序文に內務技師谷口三郎君が言はれてゐるやうに、災害に直面した場合、事務的措置を速く良く爲さんが爲の要望を達成する資料、と言ふ辭に對して筆者も亦全然同感である。

災害土木工事の復舊方針に關する現行制度に對しては獨り土木施設のみならず、其の財政的方面に亘つても改むべき諸點が尠くない、例へば國庫補助の場合に於ても制限外課稅乃至は起債の場合に於ても、損害を受けた土木施設に對し原狀回復主義を墨守するが如きは、更に受くべき損害に想倒し又施設物の效用に稽て相當改革すべき重要な點であらう。併し今之を論するのではないが、是等の事務を擔當する谷口岡本の若き二君は現行制度を研究されて現制度の可否を知得されたことゝ思ふから、更に現行制度改善の方面を研究されむことを希望して已まない。本省內に勤務する若き人々中には、聊もすれば法學の一頁を覗いたら誰にでも出來るやうな議論をして日を送つてゐる者があるが今兩君が夫等の連中と違つて眞面目に事務の實際を研究し本書を世に送られたことは筆者の頗る滿足するところである、敢て世に薦むる。(定價八〇錢、東京、守屋書店發行)